

十勝岳

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動は静穏に経過しています。山頂部の GPS 観測ではわずかな膨張が観測されました。

活発	第101回予知連(2005.6.21)による評価以降の活動状況																																																											
やや活発																																																												
静穏																																																												
	2005																				2006																				2007年																			

○ 概況

- ・ 噴煙および熱活動（図 2～5）

62-2 火口の噴煙の高さは概ね 100～200m で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。25～28 日に実施した現地調査によると、62-2 火口からは、北側内壁の噴気孔を主体として噴気が勢いよく噴出していました。火口縁では強い二酸化硫黄 (SO_2) 臭が認められました。赤外熱映像装置¹⁾により測定した 62-2 火口の温度は約 170℃ (測定距離：約 150m、北海道立地質研究所による 12 日の測定では約 160℃) で、前回 (2006 年 9 月：約 220℃) と比べて温度の低下が認められました。

大正火口や、62-2 火口周辺のその他の火口は前回（2006 年 9 月）の状況と比べて大きな変化はありませんでした。

・ 地震活動（図 2、図 6、表 1）

火山性地震は 1 日あたり 0～4 回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。求まった震源はグラウンド火口周辺の浅い所に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

- ・ 地殻變動 (図 7~10)

25～27 日にかけて山頂部の 62-2 火口周辺で実施した GPS 繰り返し観測で、62-2 火口を挟む複数の基線でわずかな膨張が観測されました。

山腹での GPS 連続観測では火山活動
によると考えられる変動は観測されませんでした。

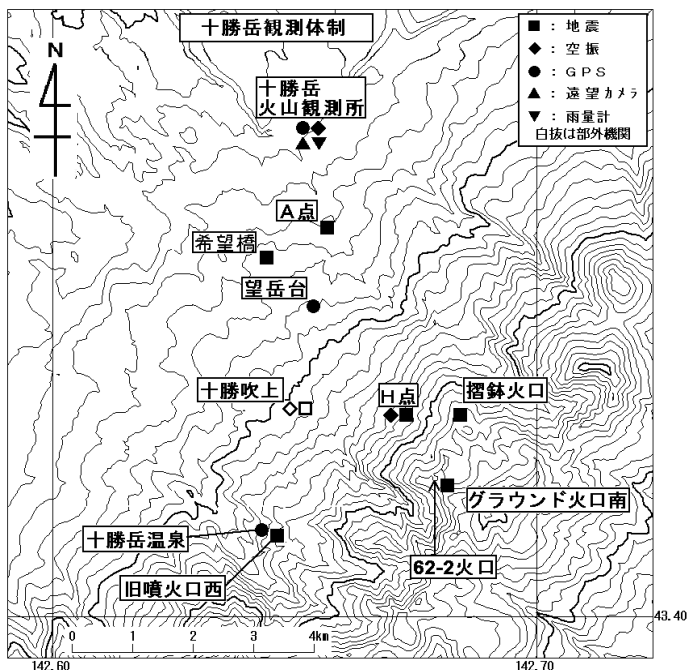


図1 十勝岳火山観測点配置図

- 1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

※ 資料は気象庁のほか、北海道、北海道立地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

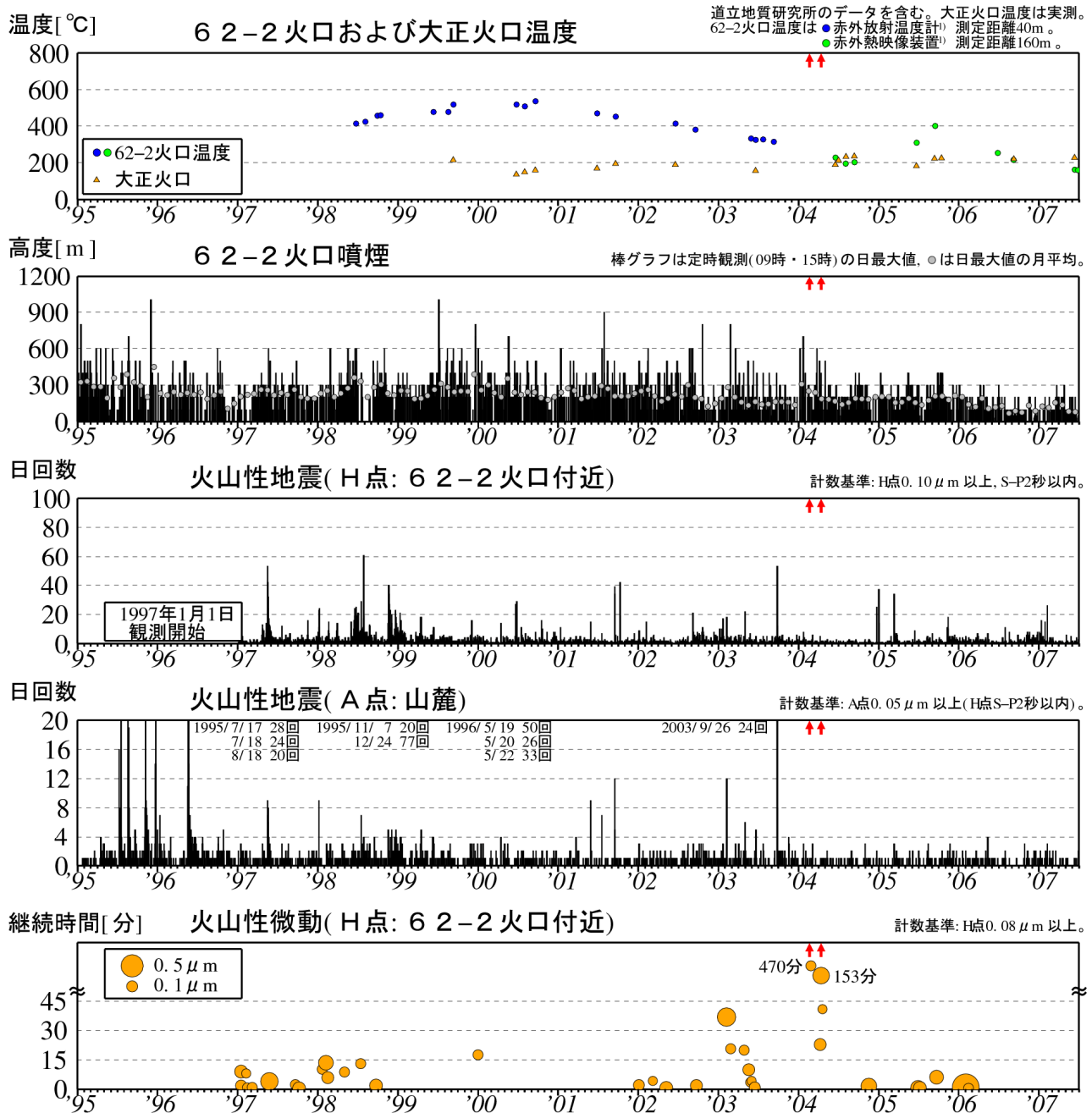


図 2※ 十勝岳 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2007 年 6 月） ↑印はごく小規模な噴火

*地震観測点 A 点は近傍での工事のため 2007 年 5 月 24 日より代替点として希望橋のデータを使用しています。

- ・ 62-2 火口の噴煙活動はやや活発な状況が続いていましたが、2006 年 1 月以降低下傾向が見られます。
- ・ 地震活動は 1999 年後半から比較的静穏に経過しています。火山性微動は 2006 年 2 月 15 日以降発生していません。

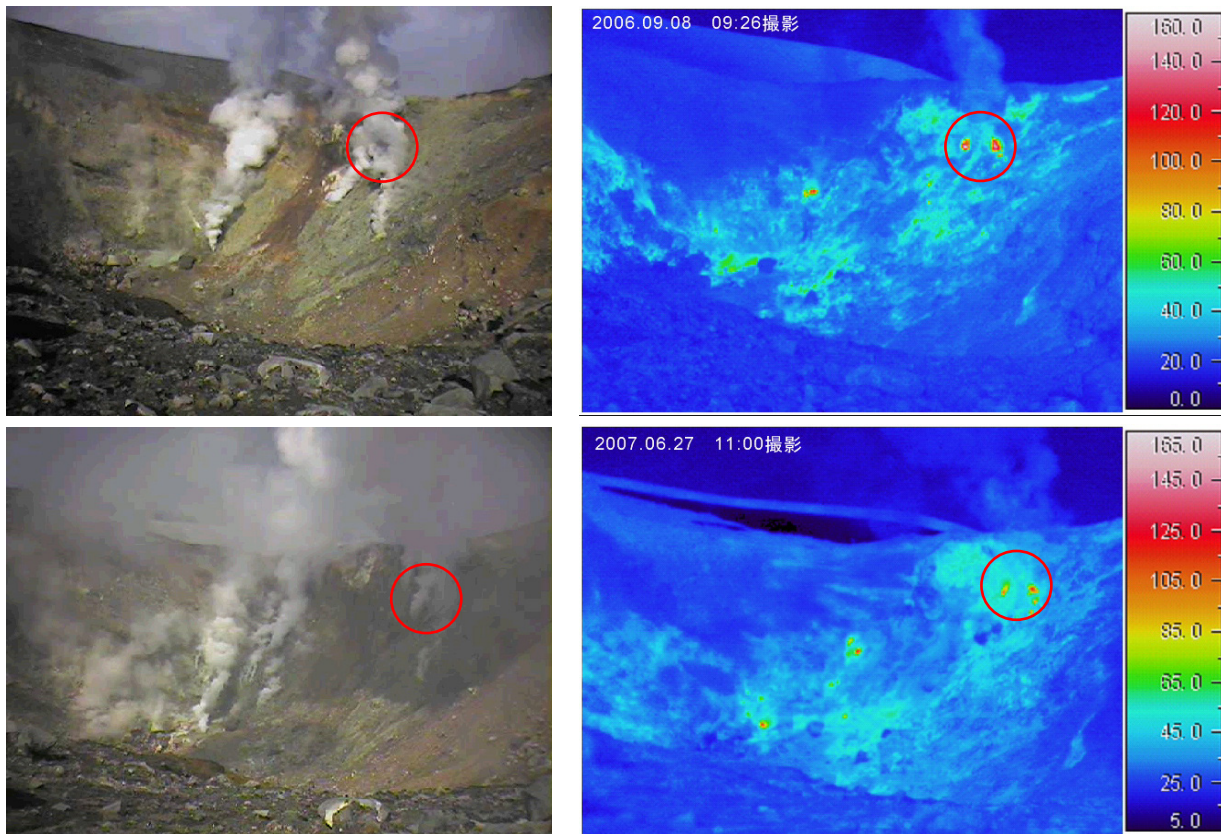


図3 十勝岳 赤外熱映像装置¹⁾による62 - 2火口の表面温度分布 ○：北側内壁の噴気孔
（上：2006年 9月 8日 下：2007年 6月 27日 図5 ■から撮影）

- ・ 北側内壁の噴気孔を主体として噴気が勢いよく噴出していました。赤外熱映像装置¹⁾により測定した62-2 火口の温度は約170℃（測定距離：約150m、北海道立地質研究所による6月12日の測定では約160℃）で、前回（2006年9月：約220℃）と比べて温度の低下が認められました。



図 4 十勝岳 大正火口（2007 年 6 月 27 日撮影）

- ・ 東側火口壁上部のやや活発な噴気孔の最高温度は約230℃（6月12日、北海道立地質研究所の測定による）で、前回（2006年9月：約210℃）と比べて大きな変化はなく、噴気の状態や変色域にも特に変化はありませんでした。

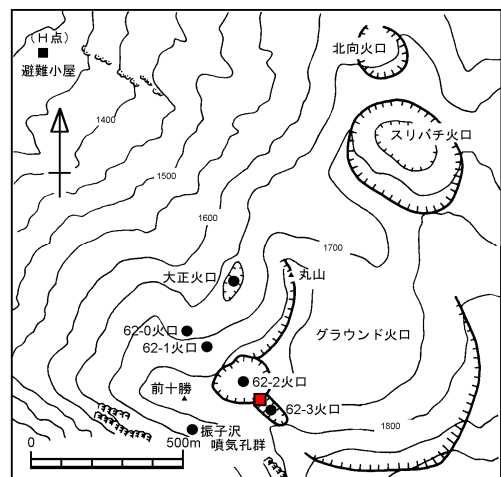


図 5 十勝岳 火口周辺図

表 1 十勝岳 地震・微動の月回数（H 点：山頂付近〔図 6 TOKH〕 A 点：山麓点〔図 6 TOKA〕）

2006 年～2007 年	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
H 点地震回数	25	22	19	32	83	76	90	54	23	15	23	19
A 点地震回数*	6	2	2	4	6	8	9	12	5	4	5	6
H 点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

*地震観測点 A 点は近傍での工事のため 2007 年 5 月 24 日より代替点として希望橋〔図 6 KBBS〕のデータを使用しています。

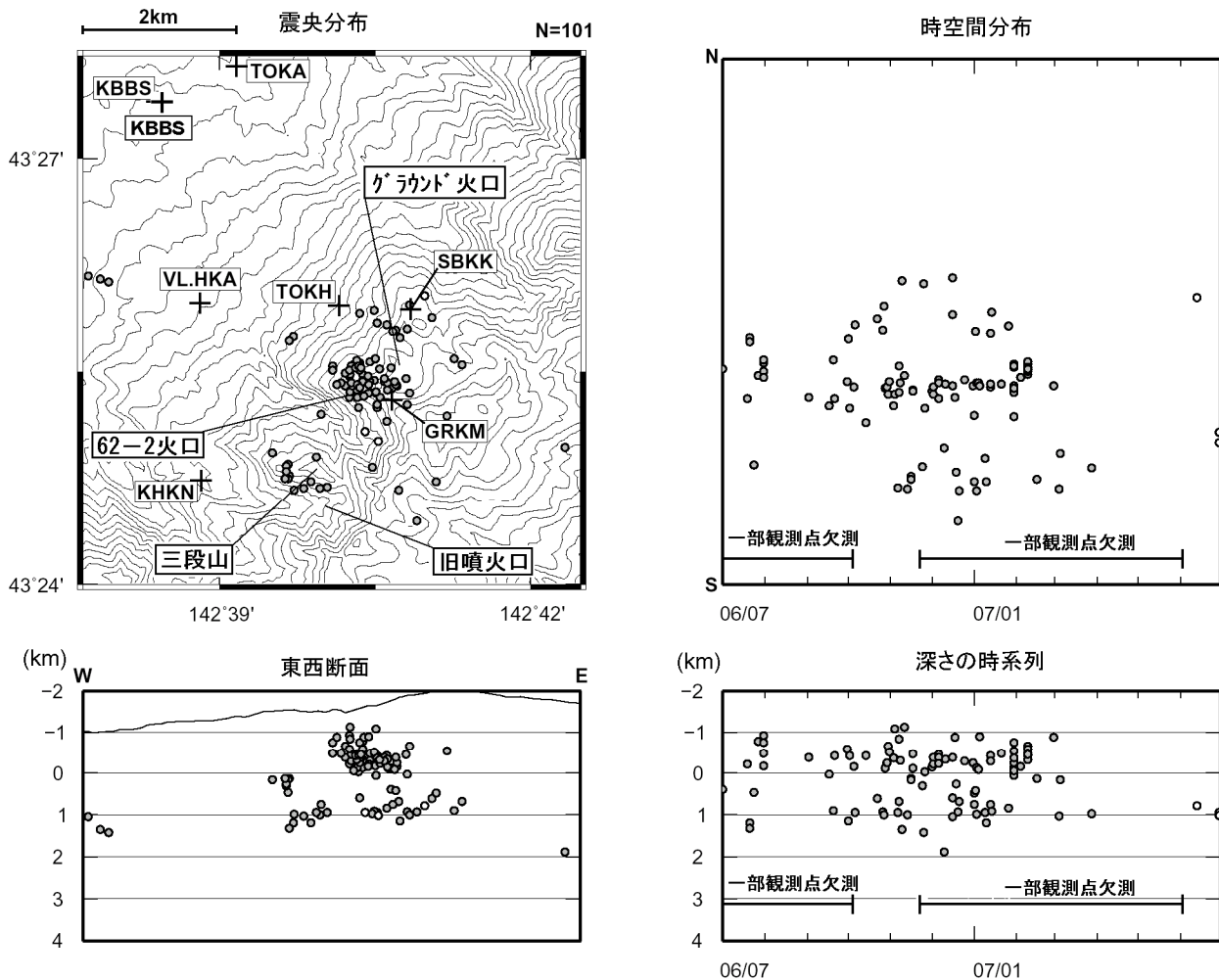


図 6※ 十勝岳の震源分布図（2006 年 7 月 1 日～2007 年 6 月 30 日、+は地震観測点）

表示期間中、2006 年 7 月 1 日～2006 年 10 月 4 日および 2006 年 11 月 22 日～2007 年 6 月 4 日の期間は、一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度が低下しています。

○印は今期間（2007 年 6 月）の震源

●印は前期間までの 11 ヶ月間（2006 年 6 月～2007 年 5 月）の震源

- ・前期間までの震源はグラウンド火口周辺の浅い所（山頂から深さ 1～3km 付近）に集中しているほか、三段山～旧噴火口周辺の浅い所にも分布しています。今期間に求まった震源も、おおむねこの領域内に分布しています。

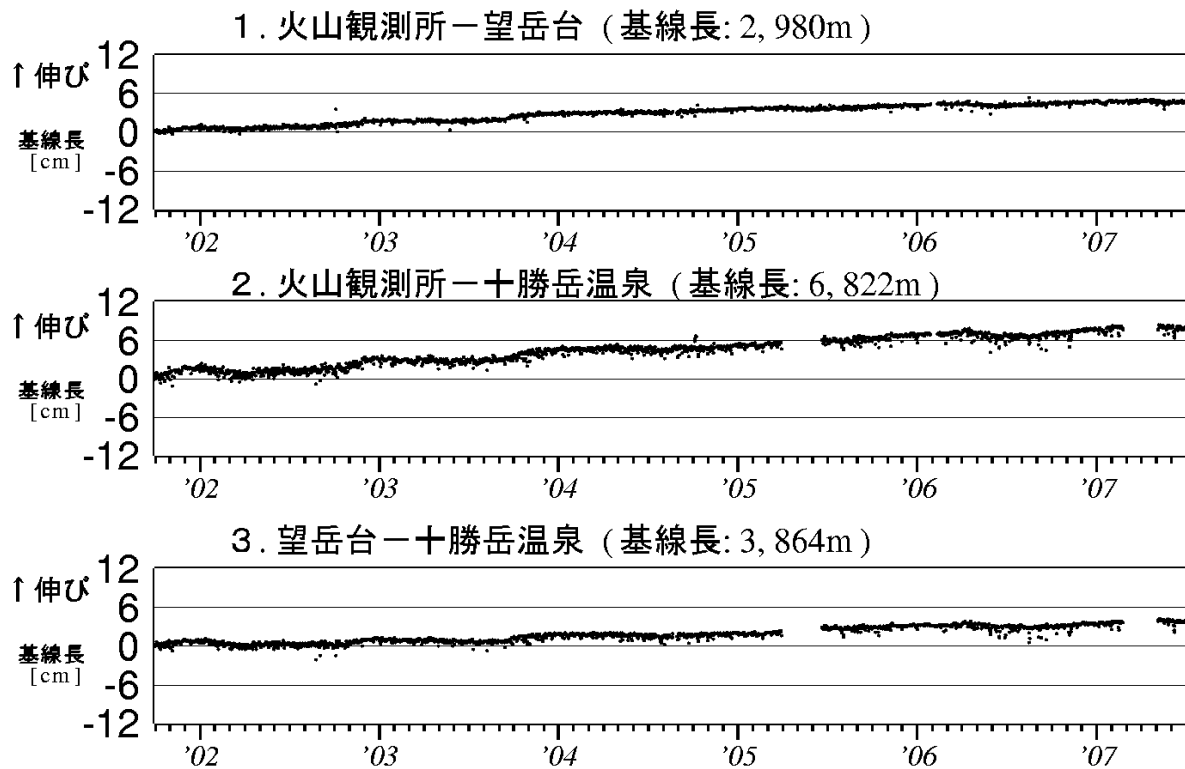


図 7 十勝岳 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 10 月～2007 年 6 月）
 グラフの空白部分は欠測
 図 7 の 1～3 は、図 8 の GPS 基線①～③に対応しています。

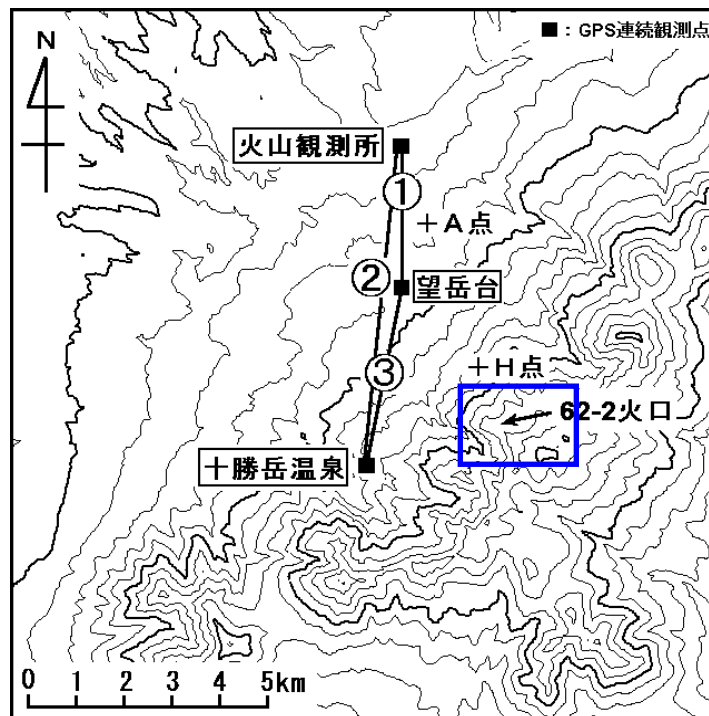


図 8 十勝岳 GPS 観測点配置図（□は図 10 の範囲）

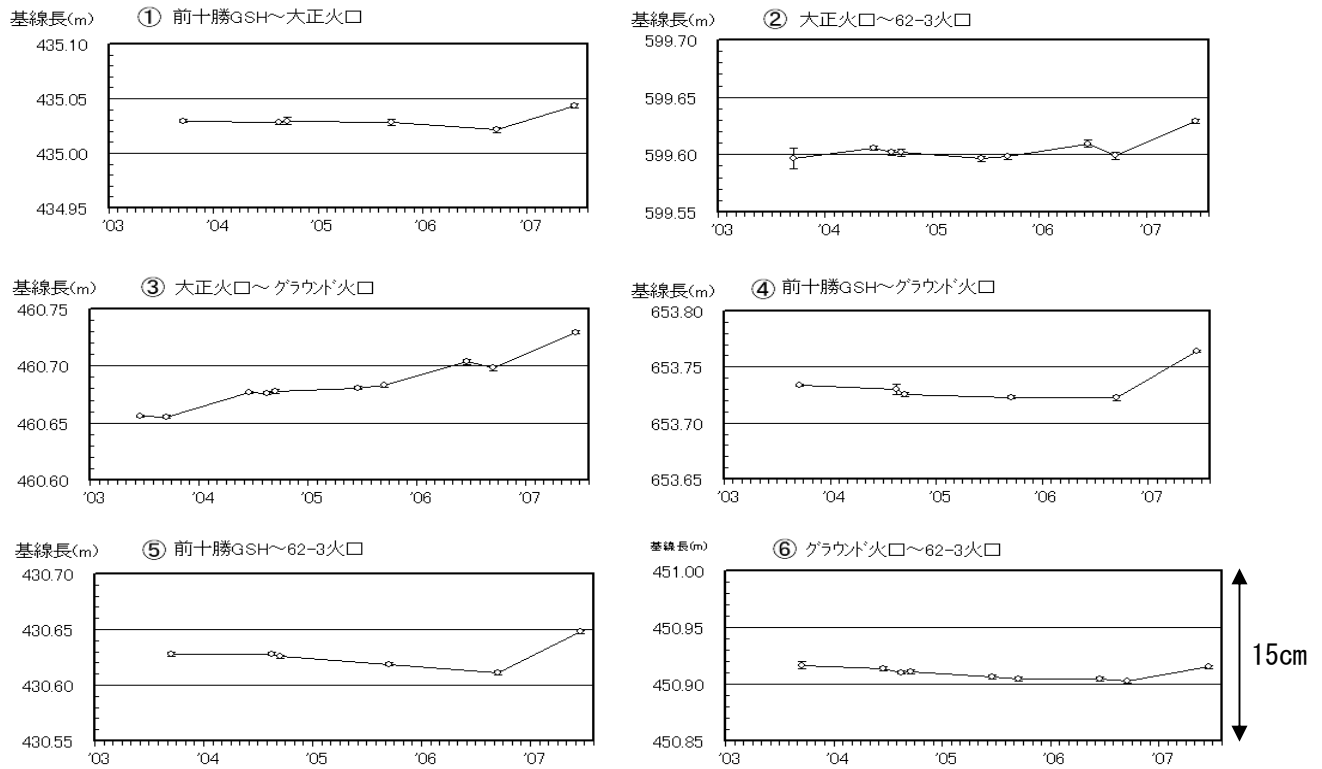


図 9※ 十勝岳 GPS 繰り返し観測による基線長変化（2003 年 6 月～2007 年 6 月）

図 9 の①～⑥は、図 10 の GPS 基線①～⑥に対応しています。

山頂部の 62-2 火口周辺で実施した GPS 繰り返し観測で、62-2 火口を挟む複数の基線でわずかな膨張が観測されました。

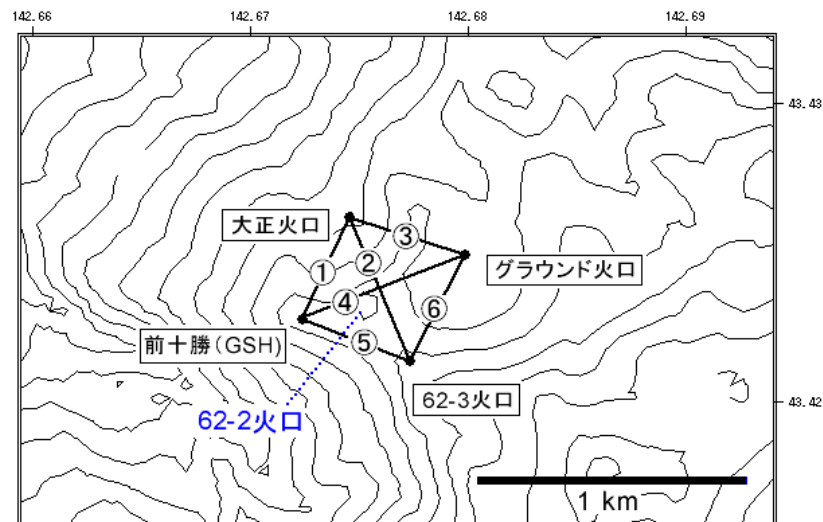


図 10※ 十勝岳 山頂 GPS 繰り返し観測点配置図